

郷土室だより

第151号

平成27年3月31日

編集・発行

中央区立 京橋図書館

東京都中央区築地1-1-1

電話 3543-9025

刊行物登録番号 26-032

鈴木理生先生追悼特集

◇はじめに

京橋図書館は明治四三(一九一〇)年八月に東京市立簡易図書館として設立認可され、今年で一〇五周年を迎えます。その歴史の中で資料室と利用者との連携を密にするという目的で昭和四八(一九七三)年六月に『郷土室だより』が創刊されて、前回でちょうど一五〇号になりました。年数で言うと四十二年の歳月を経て、刊行が続いていることになりました。

鈴木理生先生には、平成二(一九九〇)年七月発行の第六八号から執筆していただきました。今までの連載テーマには、「中央区の海岸線」「中央区の『みち』」「中央区の『橋』」「続・中央区の『橋』」「変わりゆく都市像」があります。前号までの「変わりゆく都市像」が連載継続予定でしたが、残念ながら去る三月四日にお亡くなりになりました。鈴木先生は、都市史研究者であり、江戸をはじめとする都市の形成と変遷、流通や交通体系に精通していました。また、地質学

や考古学の知見を持ち、実証的な都市史研究を行いました。『江戸と江戸城』『江戸と城下町』や『江戸の川・東京の川』『江戸の都市計画』など著書も多数あります。

今号では、鈴木先生に執筆担当していただいた連載の内容紹介と、執筆・編纂をしていただいた『中央区沿革図集』などの資料紹介を通じ、あらためて読み物として、また調査・研究用の資料として活用されることを願い、追悼特集としたいと思えます。

◇「中央区の海岸線」(六八〜七五号・全七回)

(一)内はその号のおおよその内容を示します。以下同じ)

このシリーズでは、江戸開府以前からの中央区の範囲の「原形」を確認し、どのような陸地と海が分布し、変化したのかが考察されています。

六八号(その1)「中央区の海岸線・三十間堀川」

一七メートルの帆船／ふたたび第3号／帆船への疑問／填築と中央区の海岸線の原形

六九号(その2)「日本橋台地で海

岸線の再確認

前号のあらまし／消えた三十間堀川／『朝日新聞』の記事／三十間堀川の原形／武州豊嶋郡江戸庄図／汐留川のはなし／三十間の意味／日本橋台地／偶然の一致

七〇号(その3)「日本橋台地Ⅱ江戸前島の範囲」

続「日本橋台地」／江戸前島／五万分の一地盤高図「東京」／埋立地の高さ／落語の『野晒し』／掘り出された江戸時代／収集・視察の記録／江戸前島の骨と埋立地の骨／見かたを変えると

七一号(その4)「楓川と10本の船入堀」

高速道路の下は海岸だった／船入堀と埋立地／船入堀の建設／なぜ船入堀か／伊豆石運搬／江戸図屏風／中橋広小路(その一)

七二号(その5)「中橋と歌舞伎発祥地」

中橋広小路(つづき)／中橋と紅葉川／中橋と三伝馬町／歌舞伎発祥地／劇場の場所／歓楽街の移動／芝居町その後

七三号(その6)「地下鉄都営浅草線の路線」

図の範囲と浅草線／三ツまたの変

遷／浅草線の路線／大門・人形町間の工事／N値（えぬち）／人形町駅と吉原／旧石神井川河口／思案にくれて

七五号（その7）〔埋立て時代〕

本願寺の話／「浜」が「浜町」に／浅草との関係／浅草川とスミダ川／汐入り／埋め立て時代／築地いろいろ／E東日本橋駅・F馬乗馬場／G神田薬師・遊行道場／八町堀の場合

◇「中央区の「みち」（七六）八九号・全一一回）

このシリーズでは、道路を「輪切り」にして、その断面を観察しています。『みち』としたのは「土木工事の結果としての構造物ではなく、人間生活に深く関わっていた道路のあり方に重点を置いた」からです。江戸時代の都市の町割（都市計画）は道路を中心に実施されてきました。そうして整備された町のあり方を中心に、『みち』と私有地との間に設けられていた庇地と下水との関係などを解説しています。なお、このシリーズは書き直した上で『江戸のみちはア

ケード』として出版されています。七六号（その1）〔明暦大火ころの町地〕

屏風絵と中央区／明暦の大火／放火的の江戸／防火都市計画／防火施設／復興都市計画／江戸の道路の構造／大伝馬町の場合／下水のはなし／下水のフタ／公道と私有地の境い／またもや下水

七八号（その2）〔道を中心とした町の構造〕

都市の中の道／町の大小／タテの町、ヨコの町／鎖状の町／連座制のチェーン／日本の都市の広場／五人組のこと／庇地の種類／南伝馬町の場合／はたして沓間

七九号（その3）〔庇地について〕

前回のあらずじ／小伝馬町では／伝馬町と祭り／釣庇三尺／銀座地区の場合／道幅のちがい／中橋広小路／銀座の道幅／銀座煉瓦街／庇地と洋風建物

八〇号（その4）〔沽券図と都市施設〕

公道の私有空間／ピロティ建築／いくつかの建築写真集／ふたたび路上へ／沽券図の個性／

木戸のある道／自身番／映画の中の梯子／路上の検察・裁判所

八一号（その5）〔番屋と髪結床〕

犯罪の『いちば』／与力・同心の役徳／辻番があった銀座／霊岸島の七不思議／銀座役所と銀座会所と大判座／髪結床／道路の開通。す！

八三号（その6）〔明治期のみち〕

番屋取払い／裁判所の誕生／東京と改称／庇地の研究／関心のちがい／道路清掃

八四号（その7）〔川鍋曉齋展にみる大番屋〕

特集「大番屋」／河鍋曉齋展／獄屋の様子／明治初年の獄屋事情／筆禍事件で獄屋入り／おわりに

八五号（その8）〔街便所と清掃問題〕

朝令暮改の木戸・自身番屋／六時メ切／街頭便所／二つの川柳／外国式街頭便所／外国と洋風／この場合の「外国」

八六号（その9）〔庇地と下水の取扱い〕

銀座煉瓦街の欧風道路／「欧風道路」／同時代の報道／道路と下水の取り合い／江戸—東京

の道の舗装 雲泥の差／道路も金色／道路の舗装

八八号（その10）〔銀座の中央通りの道幅〕

錦絵で見た新道路／銀座煉瓦街という名称／再び銀座の道幅／下水と舗装／日和下駄／舗装の思い出

八九号（その11）〔銀座の中央通りの変化〕

「へどろ掻き」／「日和下駄」と銀座日本橋／その後の変化／地図上の疑問／砂利道から割栗石道へ／舗装の多様化／実際の工事／おわりに

◇「中央区の「橋」（九〇号）九九号・全九回）

続編も含めたこのシリーズは、新たな角度から「橋」を見ています。「はし」は「端」でもあり、「端」と「端」を結ぶものが「橋」である、そして異なる世界を結ぶ手段の一つが「橋」で、橋には「対岸」があるという考えが元になっています。また、「橋」に関する多くの資料を用い、工事方法や使用された資材の性格などを詳しく解

説しています。なお、このシリーズは書き直された上で『江戸の橋』として出版されています。

九〇号(その1)「真田信利という殿様」

両国橋／いつ完成したのか?／仮橋と本橋／橋の被害と復旧／改架工事のうちわけ／木材が来なかった!／町人との約束／仮橋十五年

九二号(その2)「上州と江戸の交通」

沼田からの手紙／信利という大名／上州の巨木／沼田への旅／名所江戸百景／「江戸百」の中の橋

九三号(その3)「橋材と瀬替え」

橋の修理／用材の質と寸法／千住大橋のこと／天下普請の橋／荒川の瀬替え／入間川と隅田川／桧から榎へ

九四号(その4)「京橋地区の町名の一貫性」

汐入り川／両国橋掛直記録／榎か榎か／本材木町船入堀の埋め立て／榎つくし／榎の意味／榎町／現在の「榎町」

九五号(その5)「深川の発展・新大橋と永代橋」

素材としての榎／鹿児島島の榎／やまとふみの投書／深川大橋から新大橋／レインボーブリッジ／芭蕉と新大橋／五十賀の橋／あまり木余聞

九六号(その6)「町人管理橋」

その後の永代橋／屋敷と身分制度／幕府のリストラ／廃止予定だった永代橋／やはり材質か／橋銭訴訟／橋銭・掛直し・掛継

夢の浮橋／三橋会所／江戸時代の橋の技術

九七号(その7)「橋杭の立て方」

天の浮橋／『山崎架橋図』／橋杭は打ち込みか／組み立て式橋脚／集積「材」の技術／目黒の太鼓橋／橋の大敵／震ぎどめ／縄と綱

九八号(その8)「千住大橋と吾妻橋の心中・続橋杭の立て方」

女性の野次馬／船の衝突／十六艘の船の内わけ／事故の後始末／岡崎・矢作橋／震込み人足の唄／打ち込みから震り込みへ

九九号(その9)「続・続橋杭の立て方」

続モンケン／N値も同じ／震り込み復活／ばい尻／いまの震り込み／一橋脚は「二側」／両国

橋の橋脚／風景画と実際／震り込み深度／日本橋四百年

◇「続・中央区の橋」(一〇〇〇～二二二号・全二二一回)

一〇一号(その1)「橋の下には水がある」

再開よせて／橋は年表／大川四橋／深川開発／その他の川／江戸城と川／臨海都市「江戸」／江戸の水路の特徴／徳川以前の橋

一〇二号(その2)「中世の橋・江戸の高橋」

『江亭記』の中の橋／江戸の高橋の位置／『東京地質図』／江戸の高橋／高橋の理由

一〇三号(その3)「江戸の堀川」

架橋八八周年／二つの日本橋／『慶長見聞集』の日本橋／要約と問題点／橋はいつ架けられたか／慶長八年という年／堀川の意味／真相が分かる資料

一〇四号(その4)「江戸の水辺の原形」

タイトルの話し／『見聞集』の見聞／銭瓶橋／たな橋と天然橋／道三堀の出入り口／日本橋

は何時出来た
一〇五号(その5)「人工河川日本橋川」

川の両岸／五つの条件の検討／日本橋の井戸／日本橋川の断面／土木工事の特徴

一〇六号(その6)「東京の石造アーチ橋」

城の東側の外堀／鍛冶橋人／石造アーチ橋／アーチの下の映画館／肥後の石工／江戸の太鼓橋／鉄橋弾正橋

一〇七号(その7)「取捨選択の時代」

眼鏡橋の普及／近代化の足取り／「明治初期の橋梁年表」／「博愛的掘出」／「眼鏡橋」の盛衰／景観設計の犠牲

一〇八号(その8)「金物泥棒とメンテナンス」

橋の維持管理／贓物の話／橋と「御触」(町触)／貴重な「古かね」／橋の鉄物／繰り返す禁令／昔も今も

一〇九号(その9)「金物献納とその被害者たち」

見ないことには／金属不足始まる／本格的戦争の前に／金属回収の実態／空かん回収／当時の

用語について／五七年前の遺跡／なぜ「意識」なのか／中央区近代橋梁調査

一一〇号(その10)〔昭和五年当時の区内の川と橋〕

早すぎた『海国兵談』／水の上の境／日本橋区・京橋区の河川名／もう一つの荒川支川／埋められた外濠／映画「パール・ハーバー」／外濠の役割

一一一号(その11)〔掘った埋めたり都市の川〕

「江戸前島」に掘られた川／洪積地が選ばれた／外濠は平川のバイパス／横断運河紅葉川／紅葉川の橋／紅葉川の埋立／楓川とその橋

一一二号(その12)〔湊町だった京橋地区〕

横断運河十一本／日本橋二丁目遺跡／舟入堀計画／巨石の必要性／港湾施設と輸送路と／家康の許して実現／石綱船と修羅／その後の町の移動

一一三号(その13)〔公表された疲労亀裂〕

橋の形相／道路の橋脚／橋と道路／モノの寿命／京橋川と京橋／銀座の意味／銀座の匂い／

初期の「銀座地区」の範囲
一一四号(その14)〔埋立地ではない場所・銀座〕

「銀座地区」の周囲／芝口御門／再出三十間堀／「銀座」東側の埋立地／意外な河岸の広さ

一一五号(その15)〔職人の町木挽町〕

開府四百年／三十間堀川の東岸／木挽町／木挽きの風景／消えた木挽きたち／三十間堀川の橋

一一六号(その16)〔杭上都市の成立・江戸名所図屏風での比較〕

橋と端／劇場街木挽町／地点の確認／地図との比較／木挽町の地価／江戸劇場街成立地

一一七号(その17)〔水ぎわの盛り場〕

江戸劇場街の実態／杭上家屋／「傾く」／「厳有院殿御実紀」／劇場街の水道

一一八号(その18)〔戦前の外濠埋立計画・八重洲口の誕生〕

君の名は／外濠埋め立て／未見の資料／資料の説明／発行時点の推定／数寄屋橋附近整理完成後の鳥瞰図

小さな橋／新田橋／弾正橋／八幡橋(国指定重要文化財) 江戸東区富岡一丁目二番七号／第2編の表と解説記事／中央区最狭の松幡橋／楓川の橋／橋の寸法などの違い
二二〇号(その20)〔水辺の近代化〕
昔の橋の実際／三ツ橋のはなし／古記録への疑問／数えたり「一厘」船と水路の近代化／帝都復興事業の意味／三ツ橋の変化／江東地区の三ツ橋
二二一号(その21)〔まとめ〕
長すぎました／橋シリーズ／橋シリーズ一覽／橋の資料

新しい《都市》を見つけようという試みです。
一二二号 (1) 〔近世都市・江戸のスタート〕

はじめに／「オランダ西鶴」／短編小説の名手／諸国と海外／銀が落ちて／江戸だな／近世都市のスタート／新興都市では

一二三号 (2) 〔市・市場と「いちば」〕

都鄙問答／市・市場・いちば／文章と心象風景／一神教と多神教(汎神論)

一二四号 (3) 〔「市場法」の公布施行〕

市場の大変貌／市場の誕生／社会事業は赤化防止策／統制経済のスタート／極悪とされた相対取引／「いちば」論議の実例／競り売りの見学／樽単位から三グラム

一二五号 (4) 〔「いちば」と伝道キヤラバン〕

「いちば」の《統制》／「いちば」の立地条件／伝道キヤラバン／東アジアの変化／情報の「いちば」

一二六号 (5) 〔「いちば」の構造と都市施設〕

このシリーズでは、「江戸」の中の「江戸」であった中央区を中心に、新陳代謝を繰り返す《いきもの》である都市の変遷のあり方をたどっています。これまでの連載がハード面の《都市の条件》に重点を置いてきたのに対し、都市とは「人」と「モノ」と「情報」の交流の場である、という《くぐりかた》で、ソフト面に切り口を変更して

- 福岡市／「いち」のありさま／
 二軒の布屋と穀屋？／仮面屋／
 「いちば」の構造／「いちば」の
 人々／被り物
 一三七号 (6) 「堀川の役割」
 川の役割／堀川風景／都会の河
 川名の比較
 一三八号 (7) 「江戸最初の市
 場と本町通りの道筋」
 いちばの「絵」／江戸初期のい
 ちば／最初の市場／「町」と第
 二次天下普請／本町の意味
 一二九号 (8) 「日比谷入江の
 埋立と通り町筋」
 日本橋南／水源をたち切る／円
 覚寺領江戸前島／日本橋川掘
 割／唐人一官の地所
 一三〇号 (9) 「関東地方に見
 る都市の原形」
 城主と都市／旧徳川領に入部し
 た大名／武蔵の場合／「市場之
 祭文」
 一三一号 (10) 旅行く人々
 主要街道の宿駅／中世の旅人の
 役割／時宗二大寺の場合／一向
 宗と鷲宮の場合
 一三二号 (11) 市場の定着
 法華大将／本阿弥光悦／楽市楽
 座／商工業者の定着／銭瓶橋／
 太田道灌の銭遣い
 一三三号 (12) 市場原理とい
 うもの
 五百二十三年前の江戸湊／市場
 災害の影響／《市場原理》／『魏
 志倭人伝』
 一三四号 (13) 東西の市場
 古い事柄の最新情報／中国の市
 場／日本の官市
 一三五号 (14) 近代欧米の都市
 施設
 忙しかった10月／10月中旬の新
 聞見出し／ノーベル経済学賞と
 市場論／不安定な市場／古代日
 本のハイウェイ
 一三六号 (15) 《やさしい経済
 学》
 資本主義はいつから？／日本の
 場合／《最近の経済学》／中央
 区内の取引所（市場）／多彩な
 商品
 一三七号 (16) 風土記の中の市
 場
 千三百年前の宅配業者／長屋王
 邸宅発掘／「風土記」に見る
 「市」／『常陸国風土記』／『出
 雲国風土記』の「市人」／『播磨
 国風土記』／『豊後国風土記』／
 『肥前国風土記』／終わりに
 一三八号 (17) 《種々な市》
 「纏向遺跡」の原形／「日本書
 紀」では／天皇陵の謎／市と
 屯倉
 一三九号 (18) 《種々な市》
 市と屯倉（承前）／中央区内の
 市場／生鮮食品市場では
 一四〇号 (19) 《風評と市場》
 「風評」と市場／実情報告／「い
 ちば」概観／「ほうけん」とは／
 都市の誕生
 一四一号 (20) 《再考「山・里・
 野」》
 （承前）都市の誕生／歌の思い
 出／山岳集落／「里に来た」／
 「野」の場合
 一四二号（番外）京橋図書館「戦
 中日誌」
 検閲とは何か／新資料発見／
 《検閲ガラ》の利用の実態／「戦
 中日誌」で見た生活／無事の連
 続
 一四三号 (21) 《「里」と「野」と》
 「野」の場合（続き）／「野」の
 「里化」／自動車春秋／首相の市
 場観
 一四四号 (22) 「出会い」・「共
 栄」の場こそ市場そのもの（「
 里」の末路／再掲「首相の市場
 観」／市場論の個性／経済教室
 と「市場之祭文」／「共有地
 （池？）の悲劇」
 一四五号 (23) 「いちば」の姿
 の一断面（本所梅屋敷から）
 二百年前の「春」／日本橋の力／
 都市景観の実態／日本橋と本所
 梅屋敷
 一四六号 (24) 「下総と武州の
 ちがいが」
 二百年前の「武州」／下総の梨
 産地／与力同心大縄拝領屋敷／
 再びフルーツ産地スケッチ
 一四七号 (25) 「都市的变化の
 好例をみる」
 市場への疑問／東京・大阪両市
 場の統合／市場性を失った都
 市／基準地価の推移
 一四八号 (26) 「情報社会の「い
 ちば」事情」
 入札も神意／現代の「いちば」
 事情／首相の反応／二番目の小
 記事／「ガンバレ・リケジ
 ョ！」／ノーベル賞の種類／S
 T A P（スタッフ）報道／東大
 の場合
 一四九号 (27) 「現在の「日本の
 市場」状況」
 新細胞《真贋》論争／第三者と

は別個に／6月上旬の状況／
「^{はくじん}追真」の連載

一五〇号 (28) 「東京の東西南
北」

途中中断のお詫び／敗戦直後の
東京事情／「城」を中心にした
地域名／「西郊」＝「下宿屋の
町」／都心の「日京2区」／図
書館で資料の刊行

◇『中央区沿革図集』 京橋篇・

日本橋篇・月島篇

鈴木先生は、『中央区年表』や
『中央区三十年史』の編纂にも携わ
っていました。文字で詳細に書か
れた二つの資料に対し、中央区を
中心にした江戸時代から現在まで
をデジタルで調べられる地図集
が『中央区沿革図集』です。「地図
は見るものではなく、読むもの」
という考えのもとに、読んで、
見て、楽しめる地図集を目指して
編集されています。江戸から東京
の町の変化を明らかにすることが
一つの柱です。そのために、たく
さんの地図資料をもとに、中央区
を取り巻く自然条件を確認し、都
市の制度が実際の町並みにどのよ

うな影響を与えてきたのが検討
されています。平成五年度から七
年度にかけて一冊ずつ刊行されま
した。

最初に発行された月島篇は、潮
の干満によって「見えかくれする
洲」だった月島がどのような条件
と社会的理由によって、現在の月
島地区を形成するようになったの
かを東京湾の埋立事業との関係で
明らかにすることに重点が置かれ
ています。これは、初めて意識的
に工業地帯が計画された新天地
〔月島地区〕の「意味」を明らかに
することでもありました。また、
江戸・東京の海の玄関口であった
〔月島地区〕の移り変わりを可能な
限り再確認するための資料を集め
ることに力を入れています。最
大の特徴としては、築島百年記念
行事に「昭和七〜十一年火保図」の
空白に現住民やかつての住民の方
に書き込んでいただいた地図「記
憶の中の月島」が掲載されている
ことです。

次に発行された日本橋篇では、
家康が江戸入りした当時の姿や中
央区の範囲の土地の様子を知るこ
とができる地盤図、区民有形文化

財である『寛保沽券図』、帝都復興
区画整理図、祭礼の産子町を図化
した「祝祭都市」日本橋」の図を
メインに江戸から現代までの町並
みの変化を追うことができます。

江戸期の日本橋地区も現在同様、
日本を実質的に代表する場所であ
ったことから高度成長期の地区の
様子まで、時代の流れを立体的に
確認することができるようになって
います。

最後に刊行された京橋篇は、三
つの柱から成り立っています。ひ
つとは、世界的港湾都市江戸湊と
バタビアの湊の比較から当時の世
界の都市への視点があったことの
紹介。次に、路線価格や税金（聞
小間）などの情報を載せた地図＝
沽券図を通じて視覚から中央区の
都心性が分かるような工夫をした
こと。最後に、歴史的に都市のコ
ミュニティの骨格だった、土地・
家屋所有者に関する公的な情報が
掲載されている地図集は、最後の
ものになるかもしれないというこ
と。これらの視点から新旧の京橋
地区の変遷が分かるようになって
います。

◇「東京を語る会」

回地名文化賞を受賞しています。

昭和四五（一九七〇）年から開
催していた講演会です。鈴木先生
には、第一五回の「江戸のおまつ
り」（昭和五〇年六月二八日）と第
五一回の「ポートピア16―江戸湊
のなりたち―」（昭和六二年五月二
三日）、第七四回の「江戸の町のな
りたち」（平成一〇年一〇月二四
日）を担当していただきました。

◇次号から筆者が交代し、新シ
リーズを開始する予定です。
今後ともよろしくお願いま
す。

なお、『中央区沿革図集』は第一六

◇地域資料室所蔵著作リスト

| タイトル | 著者表示 | 出版者 | 出版年 | 請求記号 |
|--|-------|----------------|------|---------|
| 家主さんの大誤算－地主・家主の役割から見た、江戸東京の住まいと暮らし。－（三省堂選書 169） | 鈴木理生著 | 三省堂 | 1992 | K 205 ス |
| 江戸商家と地所－江戸草分け町家の存続と守成－ | 鈴木理生著 | 青蛙房 | 2000 | K 673 ス |
| えどちりQuestion 其の1（ものしりミニシリーズ） 江戸のかたち編－江戸の地形と都市計画－ | 鈴木理生著 | 人文社 | 2008 | K 205 ス |
| えどちりQuestion 其の2（ものしりミニシリーズ） 江戸のしくみ編－古地図でみる江戸の都市制度－ | 鈴木理生著 | 人文社 | 2008 | K 205 ス |
| 江戸っ子歳事記 | 鈴木理生著 | 三省堂 | 2008 | K 385 ス |
| 江戸・東京の地理と地名－スーパービジュアル版 「町」から「街」へ－時を超えた東京散歩－ | 鈴木理生著 | 日本実業出版社 | 2006 | K 20 ス |
| 江戸と江戸城－家康入城まで－ | 鈴木理生著 | 新人物往来社 | 1975 | K 205 ス |
| 江戸と城下町－天正から明暦まで－ | 鈴木理生著 | 新人物往来社 | 1976 | K 205 ス |
| 江戸の川・東京の川 | 鈴木理生著 | 井上書院 | 1989 | K 517 ス |
| 江戸の川・東京の川（放送ライブラリー 16） | 鈴木理生著 | 日本放送出版協会 | 1978 | K 517 ス |
| 江戸の都市計画－都市のジャーナリズム－ | 鈴木理生著 | 三省堂 | 1988 | K 329 ス |
| 江戸の橋 （角川ソフィア文庫 SP-I-11-6 シリーズ江戸学） | 鈴木理生著 | 角川学芸出版 | 2008 | K 515 ス |
| 江戸の橋 | 鈴木理生著 | 三省堂 | 2006 | K 515 ス |
| 江戸の町は骨だらけ | 鈴木理生著 | 桜桃書房 | 2002 | K 205 ス |
| 江戸の町は骨だらけ（ちくま学芸文庫） | 鈴木理生著 | 筑摩書房 | 2004 | K 205 ス |
| 江戸のみちはアーケード | 鈴木理生著 | 青蛙房 | 1997 | K 329 ス |
| 江戸はこうして造られた（ちくま学芸文庫） | 鈴木理生著 | 筑摩書房 | 2000 | K 329 ス |
| 大江戸の正体 | 鈴木理生著 | 三省堂 | 2004 | K 205 ス |
| お世継ぎのつくりかた－大奥から長屋まで江戸の性と統治システム－ | 鈴木理生著 | 筑摩書房 | 2006 | K 38 ス |
| お世継ぎのつくりかた－大奥から長屋まで江戸の性と統治システム－（ちくま学芸文庫 ス5-3） | 鈴木理生著 | 筑摩書房 | 2010 | K 38 ス |
| 川を知る事典－日本の川・世界の川－ | 鈴木理生著 | 日本実業出版社 | 2003 | K 517 ス |
| 区の誕生 | 鈴木理生著 | 中央区文化・国際交流振興協会 | 1997 | K 206 ス |

| タイトル | 著者表示 | 出版者 | 出版年 | 請求記号 |
|----------------------------------|---------------------------|----------------|------|---------------|
| 古写真で見る江戸から東京へ | 小沢健志監修 鈴木理生監修 | 世界文化社 | 2001 | K 2007 コ |
| 古地図から読みとる西洋が見た“ニッポン” | 鈴木理生著 | 中央区立 京橋図書館 | 1991 | K 201 ス |
| 図説江戸・東京の川と水辺の事典 | 鈴木理生編著 | 柏書房 | 2003 | K 517 ス |
| 多摩・東京―その百年（多摩歴史叢書 2） | 鈴木理生著 | たましん地域文化 財団 | 1993 | K 26 ス |
| 千代田区の歴史（東京ふる里文庫 5） | 鈴木理生文 東京にふる里 をつくる会編 | 名著出版 | 1978 | K 211 ス |
| 東京の地名がわかる事典－読む・知る・愉しむ－ | 鈴木理生編著 | 日本実業出版社 | 2002 | K 20 ス |
| 東京の地理がわかる事典－読む・知る・愉しむ－ | 鈴木理生編著 | 日本実業出版社 | 1999 | K 20 ス |
| 都市空間としての江戸の城下町 | 鈴木理生著 | | | K 204 ス |
| 幻の江戸百年（ちくまライブラリー 57） | 鈴木理生著 | 筑摩書房 | 1991 | K 329 ス |
| 明治生れの町神田三崎町 | 鈴木理生著 | 青蛙房 | 1978 | K 211 ス |
| 中央区年表 昭和時代9 公害の頂点篇－昭和40～44年－ | 中央区立 京橋図書館編 | 中央区立 京橋図書館 | 1990 | K 212 チ 11 |
| 中央区年表 昭和時代11（昭和50～54年） 円高不況期篇 | 中央区立 京橋図書館編 | 中央区立 京橋図書館 | 1992 | K 212 チ 13 |
| 中央区沿革図集－月島篇－ | 中央区立 京橋図書館編 | 中央区立 京橋図書館 | 1994 | K 2123 チ |
| 中央区沿革図集－日本橋篇－ | 中央区立 京橋図書館編 | 中央区立 京橋図書館 | 1995 | K 2121 チ |
| 中央区沿革図集－京橋篇－ | 中央区立 京橋図書館編 | 中央区立 京橋図書館 | 1996 | K 2122 チ |